

## 創発デザイン工学環が2027年4月新設(設置届出書提出中)

詳細は — P15

創発デザイン工学環(募集人員80名)は専門分野を横断する「学部等連係課程」として誕生します。学部等連係課程とは、複数の学部が連係してカリキュラムを編成する新しい組織。「環」には「つながり」や「循環」といった意味が込められています。理工学部・建築都市デザイン学部・情報工学部を連係協力学部とし、その分野を横断するつながりを基盤に、独自のプログラムで新たな学びを提供します。総合型選抜(1段階選抜制)の創発デザイン工学環開設特別入試では、いち早く新学環への入試にチャレンジできます。

## 共通テスト利用入試:国公立大学を志望する受験生が併願しやすい入試設計

詳細は — P28~

- 共通テスト利用入試・前期では、3教科型/5教科基準点型/6教科基準点型の入試制度を用意しています。国公立大学を志望する方でも学習スタイルを変えることなく東京都市大学を受験することができます。
- 共通テスト利用入試・前期(5教科基準点型)/6教科基準点型は学環・学科が定める基準点以上で必ず合格となる入試制度です。
- 学環・学科によって理系重点方式の配点または文系重点方式の配点を設定し、共通テストの得点を総合的に評価します。他大学を含めた入試戦略の中で東京都市大学を組み込みやすい設計です。
- 学環・学科が指定している教科(科目)を受験していれば複数出願が可能です。併願割引制度があるので、共通テスト利用入試・前期では40,000円で最大57出願が可能です。
- 国公立大学前期日程合格発表後の3月10日まで出願できる共通テスト利用入試・後期(6教科型)もあり、国公立大学を受験しながら、東京都市大学を受験することが可能です。

## 一般選抜:合格者数が最も多い入試制度

詳細は — P31~

- 一般選抜・前期は募集人員が最も多く、合格者数も最も多い入試制度です。
- 一般選抜・前期は試験日自由選択制で実施します。学環・学科ごとの試験日指定がなく、すべての日程で学環・全学科において試験を行いますので、受験生は試験日を自由に選択して受験できます。同じ学環・学科を複数日受験することもできます。
- 一般選抜・前期(2月4日の共テ併用型を除く)/中期/後期で入試制度ごとに最大4出願まで併願可能で、併願割引制度もあります。
- 学外試験場は、前期(2月1日・2日のみ)は全国20ヶ所、中期は全国14ヶ所を設置。自宅に近い学外試験場を利用すれば移動の負担も軽減できます。
- 一般選抜・前期/中期では英語外部試験の利用が可能です。指定された英語資格・検定試験のスコアに応じて、本学の定める換算表に基づき、英語の[みなし得点]を付与します。
- 一般選抜・前期(2月4日の共テ併用型を除く)では、1年次から原則として4年間の授業料全額免除(入学金、後援会費および校友会終身会費分納金は除く)となる特待生制度があります。

## 入試制度が多く合格のチャンスが多い年内実施入試

年内実施入試では総合型選抜(1段階選抜制)、総合型選抜(2段階選抜制)、学校推薦型選抜(指定校制)、学校推薦型選抜(公募・専願制)、学校推薦型選抜(公募・併願制)等と、多様な入試制度を用意しています。自分の強みを生かせる入試制度が複数あるのが、東京都市大学の特長です。

### <併願例>

#### ①理工学部 電気電子通信工学科志望の場合

試験日:10月3日(土)

総合型選抜(1段階選抜制)  
グローバル・リーダー育成枠入試

試験日:10月24日(土)

総合型選抜(2段階選抜制)

試験日:11月21日(土)

学校推薦型選抜(公募・専願制)  
or  
学校推薦型選抜(指定校制)

#### ②デザイン・データ科学部 デザイン・データ科学科志望の場合

試験日:10月3日(土)

総合型選抜(1段階選抜制)  
デザイン・データ科学探究入試

試験日:10月24日(土)

総合型選抜(2段階選抜制)

試験日:11月21日(土)

学校推薦型選抜(公募・専願制)  
or  
学校推薦型選抜(公募・併願制)  
or  
学校推薦型選抜(指定校制)

上記の通り年内実施入試では、複数の入試にチャレンジすることができ、合格のチャンスを多数用意しています。なお、学校推薦型選抜(指定校制)を検討されている方で、校内選考の内定がまだ出ていない場合でも、総合型選抜を出願することは可能です。

## 高等教育の修学支援新制度(東京都市大学の場合) 経済的負担を軽減し、安心して学ぶために

東京都市大学は、国の「高等教育の修学支援新制度(給付型奨学金・授業料等減免)」の対象機関です。世帯収入や家族構成に応じて支援区分が決まり、「返還不要の奨学金」と「入学金・授業料の減免」の二つの支援を受けることができます。多子世帯や理工農系学部の学生への支援もあり、本学でも多くの学生が利用しています。また、高校在学中から申し込める「予約採用」により、受験前から一定の資金計画を立てることが可能です。進学にかかる経済的負担を軽減し、安心して学生生活を送るための支えとなる制度です。内容をご確認のうえ、積極的にご活用ください。

### ■対象となる人

- 住民税非課税世帯、またはそれに準ずる世帯 ▶第I~III区分
- 扶養する子どもが3人以上いる多子世帯 ▶第IV区分(多子世帯)または多子世帯
- 私立大学の理工農系学部に通う学生で、本学では理工学部、建築都市デザイン学部、情報工学部、創発デザイン工学環<sup>\*</sup>、環境学部、メディア情報学部(情報システム学科のみ)、デザイン・データ科学部、都市生活学部の入学者が対象 ▶第IV区分(理工農)  
\*理工農系学部・学科 対象機関リストへの追加について文部科学省へ申請中  
なお、上記のほか、学業成績や学修意欲などの要件を満たす必要があります。独立行政法人日本学生支援機構(以下JASSO)のホームページ等で、自身が本制度の対象となるか確認してください。

### ■世帯年収区分ごとの支援金額例

以下に示す年収の目安は、本人・両親・中学生の弟または妹1人の4人世帯を例にしたものです。本学の場合、4年間で最大約660万円の支援が受けられます。

(単位:円)

世帯年収に基づく区分(年収の目安)	給付型奨学金(年間)	授業料等減免		4年間の合計支援金額
		入学金の減免(初年次のみ) <sup>*1</sup>	授業料の減免(年間) <sup>*2</sup>	
第I区分(約295万円まで) 住民税非課税世帯 <sup>*3</sup>	自宅外通学	909,600	700,000	6,638,400
	自宅通学	459,600	700,000	4,838,400
第II区分(約395万円まで) 住民税非課税世帯に準ずる <sup>*3</sup>	自宅外通学	607,200	467,000	4,430,200
	自宅通学	307,200	467,000	3,230,200
第III区分(約461万円まで) 住民税非課税世帯に準ずる <sup>*3</sup>	自宅外通学	303,600	233,400	2,214,700
	自宅通学	153,600	233,400	1,614,700
第IV区分(理工農) (約698万円まで)	自宅外通学	(支援対象外)	233,400	1,000,300
	自宅通学	(支援対象外)	233,400	1,000,300
第IV区分(多子世帯) (約698万円まで)	自宅外通学	228,000	700,000	3,912,000
	自宅通学	115,200	700,000	3,460,800
多子世帯のみ (所得制限なし)	自宅外通学	(支援対象外)	700,000	3,000,000
	自宅通学	(支援対象外)	700,000	3,000,000

- \*1 入学金の減免は入学時の1回のみです。新入生で入学した年度の前学期に申込みした場合に限りです。
- \*2 後援会費、校友会終身会費分納金は対象外となるため、含まれません。授業料のみ減免の対象となります。
- \*3 世帯年収が第I~III区分で、かつ多子世帯に該当する場合、支援区分に応じた給付型奨学金に加え、入学金20万円、授業料70万円(年間)の減免が適用されます。

### ■1年次の納入金額シミュレーション(例)

世帯年収区分が「第I区分」の「自宅外通学」で、理工学部へ入学した場合

● 本学・理工学部への納入金額(1年次)

入学金	20万円
授業料	160.2万円
後援会費	5万円
校友会終身会費分納金	1万円
<b>正規納入金額</b>	<b>合計186.2万円</b>

● 支援金額を差し引いた本学への納入金額(1年次)

入学金	20万円	減免
授業料	90.2万円	減免
後援会費	5万円	
校友会終身会費分納金	1万円	
<b>本制度を利用した場合</b>	<b>合計96.2万円</b>	

返還不要の給付型奨学金約90万円を充当することで、残り約6万円が実質の自己負担額に

Q 対象かどうか知りたい

JASSOの進学資金シミュレーターで、自分の家庭が給付型奨学金・学費減免の対象となるか確認できます。

Q いつ・どう申請する

前述した「予約採用」制度により、進学先が決まっていなくても、在籍する高校にて本制度は申込みできます。申請方法等の詳細は、JASSOホームページおよび在籍する高校に確認し、期間内に申請手続きを行ってください。

詳細はコチラ

世帯年収「第I区分」で「自宅外通学」の場合、納入金のほとんどを支援金で補うことができます。

\*1年次、1年間適用になった場合の例です。 ※所得の変化等により、支援額が変更になることがあります。

### ■留意事項

- 本制度の利用には受験生本人による所定の申請手続きがあり、審査の結果によっては支援を受けられない場合があります。
- 入学手続きに必要な納入金額については、本制度の適用前の金額となる場合があります。本学の入学手続きにおける本制度利用者の対応に関する詳細は、合格通知とともにお知らせする「入学手続要項」をご確認ください。